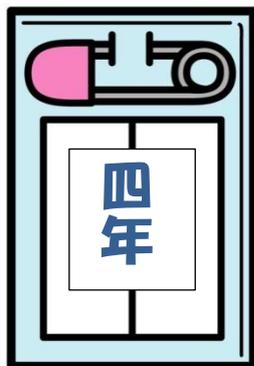


教科書の中から…

いただきます

9月



### わたしたちのくらしと月

昔の人は、月の形のかわり方を利用してこよみを作りました。月を使ったこよみの8月15日は、とくべつな日、十五夜といひ、すすきやだんごなどをそなえて、作物の実りのかんしゃしていました。

# 十五夜



かんれんこんだて 関連献立 ごはん 牛乳 さんまピリ辛ソース ごまあえ だまこ汁 お月見ゼリー

十五夜は「中秋の名月」と呼ばれています。この時期の月は空気が澄んでいて、とても鮮やかに見えます。稲にみたててすすきをかざり豊作を喜び、無事に収穫を終えたことに感謝し、米の粉で作った「月見だんご」やさといも、さつまいも、柿など、秋に収穫したものをお供えます。さといもやさつまいもなどをお供えすることから、「いも名月」ともいいます。今年の十五夜は、9月19日です。みなさんも美しい月をながめてみましょう。

教科書には載っていない…

身近な食品の話

9月



平成 25年9月 日()

献立

ごはん 牛乳 さんまのピリ辛ソース ごまあえ だまこ汁 お月見ゼリー

## 十五夜



旧暦の8月15日を「十五夜」「中秋の名月」といいます。「中秋の名月」とは“秋の真ん中に出る満月”の意味で、旧暦では1月～3月を春、4月～6月を夏、7月～9月を秋、10月～12月を冬としていたことから、8月は秋のちょうど真ん中であり、特に、この時期の月は、1年の中で最も空が澄みわたり月が明るく美しいとされていたため、8月15日の夜に出る満月を「中秋の名月」と呼ばれるようになりました。中秋の名月を鑑賞するという風習は、中国では唐の時代から知られており、これは後に平安時代の貴族の間に取り入れられ、武士や町民へと次第に広まっていきました。

### 「芋名月」とも言われる十五夜

「十五夜」は、中秋の名月を觀賞する他、これから始まる収穫期を前にして、収穫を感謝する意味あいがありました。9月頃に収穫される「芋」をお月様にお供えすることから「芋名月」とも呼ばれています。現在では、月見団子と魔除けの力があるとされたススキをそなえるのが、一般的な「十五夜スタイル」です。また、地方によってはこの日だけは、他人の畑の作物を無断で取ってもよいとか、子どもがお月見のお供えを盗んでもよいとする風習もあるそうです。



### 「月見団子」

穀物の収穫に感謝し、米を粉にして丸めて作ったのが始まりです。月に見たてて丸い団子ですが、地域に根ざした様々な月見団子があります。供える数には、満月だから12個、十五夜だから15個と2つの説があります。